

ツーリズム産業を成長エンジンに

BtoB強化で観光ビジネスの発展目指す

ツーリズムEXPOジャパン(TEJ)実行委員会は5月30日、東京・霞が関の東海大学校友会館でTEJ2017の概要発表会を開催しました。同実行委員会の委員長を務めるJATAの田川博己会長は、「TEJとしてホップ・ステップ・ジャンプの3年間を経て、これからはBtoCに加えてBtoBの更なる機能強化も進め、『明日の日本を支える観光ビジョン』で日本経済の成長エンジンに位置づけられているツーリズム産業の『見える』化を図っていききたい」と決意を示しています。

テーマは旅とツーリズムの「新しいカタチ」

一般消費者向けに「見つけよう。旅の『新しいカタチ』」、業界関係者向けには「創ろう。ツーリズムの『新しいカタチ』」をテーマに掲げるTEJ2017は、日本観光振興協会とJATAに加えて、日本政府観光局



主催者に JNTO も加わり、官民連携による三位一体を印象づけた「TEJ2017」の概要発表会



万華鏡をモチーフに「新しいカタチ」を表現した「TEJ2017」のキービジュアルに寄りそう広報アンバサダーの高田紫帆さん

(JNTO)が新たに主催者として名前を連ね、海外・国内・訪日の各旅行需要の二層の喚起を図ると同時に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックも視野に入れて、新たな観光ビジネスの創出と発展を目指します。

ビッグサイトの東棟8ホールを全面貸切り

田川会長は、TEJ2017の会場となる東京ビッグサイトで増床された2ホールも使用し、東棟8ホール全面貸切りで実施される展示会が世界有数の規模となることに言及し、特に、商談ビジネスの充実を図る考えを強調しました。今年は、商

談会場だけでなく展示会場でも商談会が行われるなど、「出展者のビジネス効果を追求する欧米型の展示会」を目指しており、キーパーソンリストの作成により開催前・開催中・開催後を通じてネットワーク構築の機会も広げ、商談会の質の向上を図ることになります。田川会長は、商談ビジネスの充実について、「BtoBの強化・完成を図る2017年から2019年までの第2ステージにおける目玉」と位置づけています。

2回の大交流会で日本の魅力をアピール

昨年までの「ジャパンナイト」に代わってTEJの5つの事業の一つとして開催されることになった「交流会」について、田川会長は「東京ビッグサイト内でWELCOME RECEPTION WORLD」とWELCOME RECEPTION JAPANという2つのレセプションを開催し、海外出展関係者約1000人と国内・訪日出展関係者約1600人による交流の場として、ビジネスネットワーキングをより重視するとともに、日本の魅力を一歩アピールする内容とした」と説明しました。田川会長は、TEJ2017の特徴として、一般消費者向けには「海外旅行の魅力を一歩アピール」「国内・訪日旅行の魅力を一歩アピール」「スポーツツーリズムの気運向上」を打ち出す一方、業界関係者向けには「グローバル商談会への挑戦」「インバウンドの強化」「国内展示でのDMO出展強化」に注力することを強調しています。

今年からJNTOも主催者に

今年からTEJの主催者に加わったJNTOの松山良理事長は、「海外・国内・訪日の各旅行におけるキーパーソンが一堂に会することによる大きな相乗効果が想定され、ツーリズム産業が基幹産業への第一歩を踏み出すことになるとTEJ2017への期待を表明しました。

来賓として登壇した観光庁の田村明比古長官は、「政府をあげて観光資源の磨き上げを図る政策を展開している中で、官民の連携した動きを発信する場としてTEJが大きな役割を果たすことになる」と指摘しています。

4省庁連携で「トラベル・マンズ」開催

さらに、今年9月から11月にかけて展開される「ジャパン・トラベル・マンズ」に参画するスポーツ庁、文化庁、環境省からも、平井明成スポーツ総括官、山崎秀保文化財部長、亀澤玲治自然環境局長の3氏が登壇。スポーツイベントや文化財、国立公園などの地域振興における役割を高める中で、ツーリズムとの連携が大きな追い風になるという認識を示し、「ジャパン・トラベル・マンズ」に積極的に関わる考えを示しました。

また、記者会見では、2017ミス日本グランプリに輝いた大阪大学文学部3年の高田紫帆さんを「TEJ2017広報アンバサダー」に任命する就任式も行われています。

「10ページに「ジャパン・トラベル・マンズ」の関連記事」